

配慮を理解していただきたいです —新旧の依頼表現に対する若年層の適切度判定—

高橋圭子・東泉裕子

要旨

新旧の依頼表現を「従来型」「許可求め型」「可能型」「願望型」の4つの型に分類し、若年層（10～20代の大学生）を対象に適切度判定の調査をした。その結果は、次の4点にまとめられる。(1)「いただく」系の表現のほうが「くださる」系より適切度が有意に高い。(2)「可能型」では、漢語による「可能」のほうが和語による「できる」より適切度が有意に高い。(3)「願望型」の適切度は、敬語形式や授受表現の有無が大きく関わる。(4)「いただく」系では「従来型」「許可求め型」を「とても適切だ」とする判定が有意に多い。今後の課題として、中高年層との比較、個人差や場面・文脈などによる相違についての検討などが挙げられる。

キーワード

依頼表現、「許可求め型」、「可能型」、「願望型」、「いただく」系

1. はじめに

配慮表現は、使用されているうちに込められた配慮の意が擦り減っていき、新しい表現が用いられるようになる（井上 1999 など）。特に若年層においては、目まぐるしく新旧の表現が交替している。そのため、日本語学習者は、教科書で示される規範的・伝統的な表現と周囲が用いる新しい表現との相違に直面し、戸惑うことも少なくない。日本語教育では、新しい表現を注意深く観察し、学習者に必要な情報を伝える必要がある。

本稿では、代表的な配慮表現の一つとして依頼表現を取り上げ、その新旧の表現の受けとめ方について、10～20代の大学生を対象として調査する。

2. 先行研究

依頼表現については、多くの先行研究がある。例えば、高橋・東泉（2019）は(1)～(3)の例を挙げ、それぞれ、「従来型」「許可求め型」「可能型」と呼んでいる。また、高橋・東泉（2021）は東京都内のA大学に在学する20歳前後の女性85名に依頼のメールを作成してもらい、(4)のような表現の出現を報告し、「願望型」と呼んでいる⁽¹⁾。

- (1) すみません、こちらのほうにも記入していただけますか—（「現日研・職場談話コーパス」、会話ID：M19K011）
- (2) お手数ですが、簡単な手順など教えてもらってよいですか?（「現代日本語書き言葉均衡コーパス」、サンプルID：0C02_02145、特定目的・知恵袋、2005年）
- (3) 明日13時にお約束しているミーティングの件で、ご連絡いたしました。誠に申し訳ございませんが、時間を14時にずらしていただくことは可能でしょうか。（「リクナ

ビNEXTジャーナル」)

(4) 先生のその本を貸していただきたいです。(高橋・東泉 2021、一部改変)

これらの依頼表現には、授受表現の「もらう」やその謙譲語の「いただく」を補助動詞として用いる「いただく」系と、授受表現の「くれる」およびその尊敬語の「くださる」を補助動詞として用いる「くださる」系がある。

(1)の「従来型」は、日本語教科書などでも取り上げられている従来の丁寧な依頼表現であり、「いただく」系には「Vて {もらえ/いただけ} {ます/ません} (でしょう) か」、「くださる」系には「Vて {くれ/ください} {ます/ません} (でしょう) か」などのバリエーションがある。(2)の「許可求め型」も、「いただく」系の「Vて {もらっ/いただい} て (も) {いい/よろしい} {です/でしょう} か」、「くださる系」の「Vて {くれ/くださっ} て (も) {いい/よろしい} {です/でしょう} か」などがある。(3)の「可能型」も、「いただく」系と「くださる」系があり、「Vて {もらう/いただく/くれる/くださる} ことは {可能/できる} {です/でしょう} か」などがある。ただし、「願望型」は「いただく」系の「Vて {ほしい/もらいたい/いただきたい} です」のみであり、「くださる」系はない⁽²⁾。

これらの多様な依頼表現に対する受けとめ方には個人差がある。高橋・東泉 (2019) は「従来型」「許可求め型」「可能型」の適切度判定についての世代間調査を行い、「許可求め型」「可能型」の新しいタイプの表現の評価は若年層 (10~20 代の大学生) より中高年層 (30~70 代以上の社会人) のほうが有意に低いことを報告している。「許可求め型」に対する否定的評価は、砂川 (2005, p. 89)、野口 (2009, pp. 128-135)、北原 (2017, p. 138) などでも述べられている。そして、管見では、「可能型」についての調査は高橋・東泉 (2019) のみ、「願望型」についての調査はまだない。

3. 調査の概要

新旧のさまざまな依頼表現の中で、どの表現がどの程度、配慮表現として適切であると若年層に受けとめられているかを探るため、2020年7月から8月にかけて、東京都内のB大学に在学する276名を対象として⁽³⁾、オンラインのアンケート調査を実施した。内容は下記のとおりである。なお、回答欄の最後には任意の自由記述欄を設けた。

年配の上司に資料の確認を頼む場合、どのような表現が適切だと思いますか。

(ア)~(サ)の適切さを、次の4段階で判定してください。

1. とても適切だ 2. やや適切だ 3. あまり適切でない 4. 全く適切でない

(ア) この資料を確認していただいてもよろしいですか。

(イ) この資料を確認していただくことは可能ですか。

(ウ) この資料を確認していただくことはできますか。

(エ) この資料を確認していただけますか。

- (オ) この資料を確認してくださってもよろしいですか。
- (カ) この資料を確認して下さることは可能ですか。
- (キ) この資料を確認して下さることはできますか。
- (ク) この資料を確認してくださいいますか。
- (ケ) この資料を確認していただきたいです。
- (コ) この資料を確認してもらいたいです。
- (サ) この資料を確認してほしいです。

調査対象表現(ア)～(サ)のうち、(ア)・(オ)は「許可求め型」、(イ)・(ウ)・(カ)・(キ)は「可能型」、(エ)・(ク)は「従来型」、(ケ)・(コ)・(サ)は「願望型」である。「願望型」を除く 3 つの型については、(ア)～(エ)は「いただく」、(オ)～(ク)は「くださる」を用い⁽⁴⁾、文末は高橋・東泉 (2019) に倣って「ですか/ますか」で統一した⁽⁵⁾。

表 1 は、調査結果をまとめたものである。調査対象表現をわかりやすく示すため、「可能型」のうち「可能」を用いた(イ)・(カ)は「可能型 A」、「できる」を用いた(ウ)・(キ)は「可能型 B」として区別した。

表 1 若年層による依頼表現の適切度判定

	型	系	とても適切だ		やや適切だ		あまり適切でない		全く適切でない	
			回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
(ア)	許可求め	いただく	181	66	75	27	17	6	3	1
(イ)	可能 A	いただく	48	17	138	50	83	30	7	3
(ウ)	可能 B	いただく	27	10	111	40	119	43	19	7
(エ)	従来	いただく	165	60	92	33	18	7	1	0
(オ)	許可求め	くださる	5	2	20	7	76	28	175	63
(カ)	可能 A	くださる	4	1	37	13	131	48	104	38
(キ)	可能 B	くださる	1	0	21	8	106	38	148	54
(ク)	従来	くださる	72	26	123	45	62	23	19	7
(ケ)	願望	いただく	96	35	124	45	44	16	12	4
(コ)	願望	(もらう)	7	3	137	50	51	19	81	29
(サ)	願望	/	10	4	47	17	123	45	96	35

4. 分析

4.1 「いただく」と「くださる」

まず、「いただく」と「くださる」の適切度の判定について分析する。表 1 から、「願望型」を除く 4 つの型それぞれの「いただく」と「くださる」の適切度判定の回答数を表 2 にまとめた。そして、「いただく」と「くださる」の適切度の判定に偏りがあるかカイ 2 乗検定を行ったところ、(5)のとおり全て有意であった⁽⁶⁾。ここから、いずれの型も「いただく」のほうが「くださる」より「適切」と回答する傾向が有意に高いと言える⁽⁷⁾。

表2 「いただく」系と「くださる」系の適切度判定の回答数

従来型	いただく (エ)	くださる (ク)	計
とても適切だ	165 (118.5)	72 (118.5)	237
やや適切だ	92 (107.5)	123 (107.5)	215
あまり適切でない	18 (40.0)	62 (40.0)	80
全く適切でない	1 (10.0)	19 (10.0)	20
計	276	276	552

許可求め型	いただく (ア)	くださる (オ)	計
とても適切だ	181 (93.0)	5 (93.0)	186
やや適切だ	75 (47.5)	20 (47.5)	95
あまり適切でない	17 (46.5)	76 (46.5)	93
全く適切でない	3 (89.0)	175 (89.0)	178
計	276	276	552

可能型A: 可能	いただく (イ)	くださる (カ)	計
とても適切だ	48 (26.0)	4 (26.0)	52
やや適切だ	138 (87.5)	37 (87.5)	175
あまり適切でない	83 (107.0)	131 (107.0)	214
全く適切でない	7 (55.5)	104 (55.5)	111
計	276	276	552

可能型B: できる	いただく (ウ)	くださる (キ)	計
とても適切だ	27 (14.0)	1 (14.0)	28
やや適切だ	111 (66.0)	21 (66.0)	132
あまり適切でない	119 (112.5)	106 (112.5)	225
全く適切でない	19 (83.5)	148 (83.5)	167
計	276	276	552

() 内は期待値

- (5) a. 従来型 $\chi^2(3, N = 552) = 81.363, V = .384, p = .000$
 b. 許可求め型 $\chi^2(3, N = 552) = 402.012, V = .853, p = .000$
 c. 可能型A(可能) $\chi^2(3, N = 552) = 191.054, V = .588, p = .000$
 d. 可能型B(できる) $\chi^2(3, N = 552) = 185.904, V = .580, p = .000$

「いただく」と「くださる」について、文化庁(2007)は「基本的には、どちらもほぼ同じように使える敬語だと言ってよい」(p.40)としているが、実際には「いただく」のほうが「くださる」より多用されている(金澤 2007; 金澤 2008, pp.124-136; 滝浦 2020, p.89 など)。本稿の意識調査は、このような使用実態を裏付ける結果であると言える。なお、自由記述欄には、(6)のような回答があった⁽⁸⁾。

- (6) a. 「くださる」を使った表現はあまり使わないのではないか。
 b. 「くださる」を使った表現は、自分だったら使わない。(複数名)
 c. 「～してくださることは可能ですか」という言い方は少しおかしい。「～してもらおう」の敬語である「～していただく」を使うほうが自然だと感じます。
 d. 「～いただく」のほうがこちらからお願いしてやってもらえるというニュアンスを感じ、「～ください」は少し上から目線に感じる。

「許可求め型」「可能型」は、「いただく」によって定型化されており、「くださる」を用いた表現には違和感を覚え、不適切と判定されやすいのであろう。「願望型」は、「くださる」は使えず「いただく」のみである。「従来型」を除く新しい依頼表現はいずれも、「いただく」の優勢を反映していると考えられる。

4.2 「可能」と「できる」

次に、可能型 A・B の適切度の判定について分析する。表 1 における(イ)・(ウ) の回答数に基づき、可能型 A「可能」と可能型 B「できる」の適切度の判定に偏りがあるかカイ 2 乗検定を行ったところ、(7)のとおり、有意であった。ここから、「可能」のほうが「できる」より「適切」と判定する回答傾向が有意に高いことがわかる。

$$(7) \quad \chi^2(3, N = 552) = 20.762, V = .194, p = .000$$

「可能」と「できる」は、意味的には等価の表現だが、前者は漢語、後者は和語である。今回の調査結果は、漢語のほうが和語より、改まり度が高いと意識されているためではないだろうか。語種による受けとめ方について、今後、さらに調査が必要である。

4.3 「願望型」

ここでは、「願望型」の適切度の判定について検討する。表 1 の(ケ)・(コ)・(サ)の回答数に基づき、4.1 節および 4.2 節と同様にカイ 2 乗検定を行ったところ、(8)のとおり、有意であった。ここから、(ケ)・(コ)・(サ)の適切度の判定には偏りがあると言える。

$$(8) \quad \chi^2(6, N = 828) = 298.073, V = .424, p = .000$$

そこで、残差分析を行った結果、表 3 のすべての値に有意性が見られた⁽⁹⁾。つまり、(ケ)は「とても適切だ」とする判定が有意に多く、「全く適切でない」とする判定が有意に少ない。(サ)は、「全く適切でない」とする判定が有意に多く、他の判定は有意に少ない。(コ)の判定は、(ケ)と(サ)の間の傾向を持つ。

表 3 「願望型」の適切度判定の調整済み残差

	いただく (ケ)	もらう (コ)	ほしい (サ)
とても適切だ	12.5**	-6.6**	-5.9**
やや適切だ	3.3**	5.2**	-8.5**
あまり適切でない	-4.8**	-3.6**	-8.4**
全く適切でない	-9.0**	3.2**	5.8**

** $p < .01$

この結果は、各表現における敬語形式および授受表現の有無が要因であると考えられる。つまり、(ケ)「いただく」は「もらう」の謙譲語であり、敬語形式・授受表現がともに用いられているため、適切度判定は最も高い。次に適切度が高いのは、「もらう」という授受表現のある(コ)であり、敬語形式・授受表現がともにない(サ)は適切度判定が最も低い。

4.4 各型の適切度判定の比較

最後に、「従来型」「許可求め型」「可能型 A」「可能型 B」「願望型」の適切度の判定について分析する。すべての型で用いられる「いただく」系の表現(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)・(ケ)について、表 1 の回答数に基づき、ここまでと同様、カイ 2 乗検定を行ったところ、(9)のとおり、有意であった。ここから、「いただく」系の 5 種類の型の適切度の判定には偏りがあると言える。

$$(9) \chi^2(12, N = 1380) = 368.892, V = .517, p = .000$$

そこで、残差分析を行った結果、表 4 のようになった。ここから、「許可求め型」(ア)と「従来型」(エ)は「とても適切だ」とする判定が有意に多いと考えられる。

表 4 「いただく」系の適切度判定の調整済み残差

	許可求め型 (ア)	可能型 A: 可能(イ)	可能型 B: できる(ウ)	従来型 (エ)	願望型 (ケ)
とても適切だ	10.8**	-7.7**	-10.6**	8.6**	-1.0
やや適切だ	-4.6**	4.1**	0.4	-2.2*	2.2*
あまり適切でない	-6.6**	4.5**	10.5**	-6.4**	-2.0*
全く適切でない	-2.1*	-0.5	4.2**	-2.9**	1.4

* $p < .05$, ** $p < .01$

5. 考察

「依頼表現」は、「行動」＝「相手」、「決定権」＝「相手」、「利益・恩恵」＝「自分」という構造を持つ表現であることが指摘されてきた(蒲谷他 1998、蒲谷 2007 など)。「許可求め型」は、「決定権」＝「相手」を明示することにより、「従来型」より配慮表現としての適切度を高めようとした表現である(文化庁 2007、蒲谷 2007、山岡他 2010、尾崎 2015、滝島・山下 2017 など)。「可能型」は、「従来型」の「V て {もらえ/いただけ} ますか」に含まれる可能の意味を、「可能」「できる」という語で顕在化させ、配慮表現としての適切度を「従来型」より高めようとした表現である(高橋・東泉 2019)⁽¹⁰⁾。

「従来型」「許可求め型」「可能型」はいずれも、相手に対する問いかけの形をとっている。これらに対して「願望型」は、あくまでも自分の内心を述べるという形をとり、間接性・婉曲性をさらに増して、配慮表現としての適切度を高める効果をねらった表現であるかと考えられる。

ただし、こうした効果がねらいどおりに発揮されているかどうかは、疑問である。先行研究による中高年層の「許可求め型」「可能型」に対する違和感を考慮すると、「願望型」に対する違和感だけが小さいとは考えにくい。今後、中高年層を対象とした調査により、実証的に裏付けていく必要がある。

今回の調査では、若年層の間では「許可求め型」と「従来型」を「とても適切だ」とする判定が有意に多いことがわかった。この結果は、先行研究で指摘されている中高年層の「許可求め型」に対する違和感との大きな相違である。

また、「願望型」については自由記述に(10)のような否定的評価も見られた。「願望型」の適切度判定は、個人差が大きいと考えられる。

- (10) a. してもらいたいという願望をそのままいうのは子供のようで、大人の会話ではあまり適切ではないと思う。
b. ケ、コ、サは上司に要求している感じがして、避けるべきかもしれません。

今後、「可能型」や「願望型」が「許可求め型」のように「従来型」と肩を並べるほど一般的な依頼表現になっていくか、あるいは他の表現に交替していくか、引き続き注視していきたい。

6. おわりに

配慮表現は変化が速く、目安となるべき文化庁(2007)からもすでに10年以上が経過している。本稿の調査から、「くださる」系に対する「いただく」系の優勢、「可能型」「願望型」といった新しい依頼表現が若年層には一定以上、適切であると判断されていることがわかった。今後、中高年層にも同様の調査を行い、今回の結果と比較したい。

さらに、表1を再確認すると、若年層の回答も、ほとんどの表現が「適切である」から「全く適切でない」まで幅広く分布していることがわかる。自由記述欄においても、上司との関係による、場面や文脈によって適切な表現は異なり得る、との指摘が少なくなかった。配慮表現に関わる多様な要因を十分考慮に入れつつ分析していく必要がある。

また、人数が多くないため本稿の分析対象からは除外したが、留学生の自由記述からは、日本語母語話者より規範・伝統に忠実で適切度に敏感な回答が見られた。留学生による適切度判定の調査にも、今後、取り組む必要がある。

(高橋圭子たかはしけいこ・東洋大学)

(東泉裕子ひがしいずみゆうこ・明治大学)

注

- 「現日研・職場談話コーパス(データバージョン 2018.03、検索ツール:中納言 2.4.2)」「現代日本語書き言葉均衡コーパス(データバージョン 1.1、検索ツール:中納言 2.4)」は、国立国語研究所コーパス開発センターによる。用例中の下線は稿者による。
- 記号の意味は次のとおりである。V:動詞、{a/b}:aまたはb、():任意。なお、本稿の「可能型」は、「可能」「できる」という表現が用いられているもののみを指し、「V-{eる/られる}」「Vて{もらえる/いただける}」のように本動詞・補助動詞

に可能形を用いた表現は含めない。また、岸江（2014）は、2007年から2010年にかけての大学生 743 名を対象とした全国調査から、自由記述方式による依頼表現の文末形式を「授受型」「許可型」「可能型」「願望型」「直接型」に分類しているが、本稿の分類とは一致しない。

3. 回答者の属性として、性別・生年・義務教育期間で最も長く暮らした都道府県名を答えてもらった。内訳は次のとおりである。性別：女 204 名、男 70 名、回答しない 2 名。生年：1998 年 28 名、1999 年 82 名、2000 年 130 名、2001 年 29 名、その他 7 名。義務教育（10 名以上の都道府県名のみ）：東京都 82 名、神奈川県 65 名、埼玉県 30 名、千葉県 21 名。
4. 「従来型」「許可求め型」「可能型」については、敬語形式の有無による適切度判定の相違は先行研究の調査があるため、本研究の調査対象表現は「いただく」「くださる」で統一し、「もらう」「くれる」は用いなかった。ただし、「願望型」については先行研究がないため、「いただく」との比較用に「もらう」「ほしい」を用いた表現も調査した。システムの都合上、調査対象表現の提示は、全員、(ア)～(サ)の順である。
5. 高橋・東泉（2019）では調査対象表現の選定にあたって自由記述による予備調査を行っている。その結果、いずれの型においても「でしょう」の使用は少なく、また、否定形「ませんか」より肯定形「ますか」のほうが多用されていたという。
6. 本稿の調査では、適切度の判定を「とても適切だ」「やや適切だ」「あまり適切でない」「全く適切でない」で行っており、順序尺度である。カイ 2 乗検定は、質的変数同士の連関（association）の有意性を統計的に検討する手法である（近藤・小森編 2012、p. 319）。なお、統計ソフトは IBM SPSS Statistics 24 を用いた。
7. ただし、クラメールの連関係数 V を比較すると、「従来型」は他の型より連関の傾向が小さい。これは、「従来型」が「いただく」系・「くださる」系の両方で用いられてきているためと考えられる。
8. 紙幅の都合上、回答は原文そのままではなく、意図を損なわない範囲で稿者らが編集したものもある。
9. 残差分析とは、カイ 2 乗検定の結果が有意であった場合に、どの観測値がこの有意性に貢献したのかを判定する方法である。調整済み残差の絶対値が 1.96 より大きい場合は 5%水準、2.58 より大きい場合は 1%水準で、その観測値は有意であると判定される（田中・山際 1992、pp. 262-263）。
10. 「V て {もらえ/いただけ} ますか」という「従来型」も、「もらえる」「いただける」という可能形を用いて可能性を問うことにより、依頼という間接発話行為を遂行する婉曲表現である。

謝辞

質問紙調査にご協力くださった皆様、統計処理についてご教示くださった新井保裕氏、原稿を丁寧に読み有益なコメントをくださったアドバイザーおよび編集委員会諸氏に感謝申し上げます。また、本研究は JSPS 科研費 20K00650 の助成を受けています。

参考文献

- 井上史雄 (1999) 『敬語はこわくない』 講談社現代新書
- 尾崎喜光 (2015) 「『～てもらっている?』の普及に関する研究」『清心語文』17, 1-24.
 <<http://id.nii.ac.jp/1560/00000191/>> (2021年1月17日閲覧)
- 金澤裕之 (2007) 「『～てくださる』と『～ていただく』について」『日本語の研究』3-2, 47-53. <https://www.jstage.jst.go.jp/article/nihongonokenkyu/3/2/3_KJ00004698056/_pdf/-char/ja> (2021年2月19日閲覧)
- 金澤裕之 (2008) 『留学生の日本語は、未来の日本語：日本語の変化のダイナミズム』ひつじ書房
- 蒲谷宏 (2007) 「『丁寧さ』の原理に基づく「許可求め型表現」に関する考察」『国語学研究と資料』30, 37-46. <<http://hdl.handle.net/2065/29459>> (2021年1月17日閲覧)
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵 (1998) 『敬語表現』大修館書店
- 岸江信介 (2014) 「現代語の依頼・禁止に見られる配慮表現」, 野田尚史・高山善行・小林隆 (編) 『日本語の配慮表現の多様性－歴史的变化と地理的・社会的変異－』くろしお出版, 205-222.
- 北原保雄 (2017) 『しっくりこない日本語』小学館新書
- 近藤安月子・小森和子 (編) (2012) 『研究社 日本語教育事典』研究社
- 砂川有里子 (2005) 「ご住所書いてもらっていいですか」, 北原保雄 (編著) 『続弾! 問題な日本語』大修館書店, 84-89.
- 高橋圭子・東泉裕子 (2019) 「配慮を理解していただくことは可能ですかー新しい依頼表現と世代差ー」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』11, 37-45.
- 高橋圭子・東泉裕子 (2021) 「大学生の依頼メールにおける配慮表現」『コミュニケーション文化』15, 83-91.
- 滝浦真人 (2020) 「『ポライトネスの原理・原則』と日本語ベネファクティブの敬意漸減」, 加藤重広・滝浦真人 (編) 『日本語語用論フォーラム 3』ひつじ書房, 75-104.
- 滝島雅子・山下洋子 (2017) 「報告させていただいてもよろしいですか?ー2016年『日本語のゆれに関する調査』から①ー」『放送研究と調査』7月号, 86-105. <https://www.nhk.or.jp/bunken/research/kotoba/pdf/20170701_6.pdf> (2021年1月17日閲覧)
- 田中敏・山際勇一郎 (1992) 『新訂 ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法ー方法の理解から論文の書き方までー』教育出版
- 野口恵子 (2009) 『バカ丁寧化する日本語』光文社新書
- 文化庁 (2007) 『敬語の指針』文化審議会答申 <http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/sokai/sokai_6/pdf/keigo_tousin.pdf> (2021年2月7日閲覧)
- 山岡政紀・牧野功・小野正樹 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現ー日本語語用論入門ー』明治書院

参考 web サイト

- 国立国語研究所コーパス開発センター <https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/> (2019年2月22日閲覧)
- リクナビ NEXT ジャーナル <https://next.rikunabi.com/journal/20170207_m1/> (2019年2月14日閲覧)